

令和4年度 測量設計業協会・地質調査業協会合同災害支援協力連絡会 記録
(大隅ブロック)

日 時：令和4年5月16日 13:30~15:30

場 所：大隅地域振興局 別館2階会議室

出席者：大隅地域振興局 建設部 徳留忠昭部長

(公社) 鹿児島県測量設計業協会 安永会長

(公社) 鹿児島県地質調査業協会 梶原景友理事長 ほか(別紙参考資料参照)

進 行： 城下技術補佐

次第

1. 挨拶

大隅地域振興局 建設部 徳留忠昭部長

(公社) 鹿児島県測量設計業協会 安永会長

(公社) 鹿児島県地質調査業協会 梶原景友理事長

2. 協定内容確認及び令和4年度建設部連絡体制

鹿児島県 技術調整係 より説明

3. 測量設計業協会資料について

(公社) 鹿児島県測量設計業協会 福田副会長より資料説明

4. (公社) 鹿児島県地質調査業協会 3理事より資料説明

5. 意見交換

◎ 意見交換等概要

部長挨拶のなかで

去年の要望を踏まえて現在本課と調整していることもあるが要望としては下記であったと認識

- ・ 災害初動調査から測量設計に移行した場合の速やかな契約 暫定契約書、発注指示書など
- ・ 災害初動調査の報告を1週間の短い期間で行うのでそれについての対応 (様式の簡素化や県側から協定書の中身以外の無理な要望はしない)
- ・ 調査時使用の道路河川台帳データを先に協会会員に渡しておく

技術調整係

報告様式の細かい箇所については現在検討中で様式以外のことを求められることから、被災の場所と数だけ報告があればと考えるがそこも含めて本課とすりあわせ中である。

部 長

地質、測量協会で調査のだぶりはないか。

地質会

コンサルの調査後に調査している。

測協会

基本的にはコンサルが先に動いている。

工事会社からの直接依頼の話もあるかもしれない

地質会

大規模災害（地すべりなど）について12箇所と多いので高度なものでなくても被害が大きかったので我々も参加した経緯があると認識している。

吉永河川砂防第2係長

コンサルから地質のながれで調査を要請している。その中で必要な箇所においてすべてではなくボーリング調査をおこなった。

部 長

- ・ 災害における契約は指示書ですすんでもいいとは考えている。
- ・ 被害状況調査においては伐採しなくてもよい。（写真で樹木等で被害箇所がみえなくてもよい）
- ・ ドローン利用などできないか。
- ・ まずは箇所数の把握をしっかりしたい
- ・ 位置図は、住宅地図は利用しなくともグーグルマップや位置情報があるだけでもいいのではないか。

河川港湾課長

設計に対するアドバイスはできないか。ボーリングの要否など

測協会

あくまで被害の初期調査のみである。契約に至った場合に行う。

部 長

調査のエリアわけなどはどうなっているか

測協会

R2 大隅では道路全路線、河川全路線など広域的に調査もあったが、他振興局では職員の方から指定があった場合もあった。しかし、後日追加で調査もあった。

できれば指示願いたい

部 長

被災箇所の延長等の計測方法はどのようにしているのか。(徳留建設部長)

測協会

計測可能箇所はメジャー、ポール及びスタッフ等で計測する。危険性がある箇所については、目視で

部 長

タブレットや専用アプリをつかった調査で簡素化できないか。

測協会

技術的に可能であるので、受発注者で検討の余地がある。

測協会

災害においては、急な業務になることから残業、休日出勤で対応するものである。特別歩掛の採用をお願いしたい。

部 長

検討する。

